

7月

樫の苗木



令和6年7月16日(火)
文責: 教頭 黒木 義昭

沖縄のちむぐくる ～ 6年修学旅行(6/26～28)～

6年生62名は沖縄へ2泊3日の修学旅行に行きました。飛行機で那覇空港に降り立ち、いきなり真夏に放り出されようで、その蒸し暑さに驚かされました。ちょうど沖縄は梅雨明けしたばかり。強い日差しが照りつける中、子供たちは、沖縄戦での本県出身の戦没者が眠る慰霊の地「ひむかいの塔」で平和を誓い、木城町慰霊の歌「三百三十八柱」を歌いました。ほとばしる汗を光らせ歌う子供たちの姿に胸を打たれました。「ひめゆり平和記念資料館」、摩文仁の丘の「平和の礎」で戦争の悲惨さを学んだあと、



【ひむかいの塔】



【民泊先にて】



【国際通り】



【首里城】



【国際通り班別自主研修】

計画段階から旅程の最後まで、多くの方々にお世話になって実現した修学旅行。特に沖縄の方々の優しさやおもてなしの心(ちむぐくる)、笑顔にたくさん触れることができたことは、子供たちの心にしっかりと刻まれていると思います。今後の子供たちの成長の肥やしになる、とても有意義な旅でした。



【民泊入村式にて】

子供たち一人一人に確かな学力を ～ 学校支援訪問（7／3）～

木城町教育委員会、町教育委員、町社会教育委員、県教育委員会、学校運営協議会の委員、そして宮崎大学の先生方を含め総勢24名の皆様をお迎えし、学校支援訪問がありました。

これは、学校の課題解決のために教育委員会が支援を行うもので、学校経営についての説明や質疑、そして教職員の授業を参観いただき、様々な角度からご意見や助言をいただくものです。

本校では全職員で授業実践上の留意点等をまとめた「木城スタンダード」をもとに授業改善を図り、学園生の学力向上に取り組んでいます。今回、教職員一人一人が学級の実態をもとに、育成したい資質・能力を明確にし、この木城スタンダードを活用した学習指導案を作成して授業をしました。

授業後は5つの分科会に分かれて活発な協議をし、宮崎大学や教育委員会の先生方にも助言をいただき全体会で共有をしました。今後も、子供たち一人一人に確かな学力を身に付けさせるために研修を深めていきます。



よりよい学校を創りたい ～ 学園生総会（6／21）～

第Ⅱ・Ⅲステージ（5～9年生）の学園生が体育館に集い、今年度の活動方針や会則の確認、各専門委員会の活動や計画の報告、そして全校討議がありました。議題は「正しい廊下歩行の仕方」と「休み時間の正しい過ごし方」でした。4月から複数回の審議で、児童生徒会執行部を中心に学園生が主体的に準備を進めてきました。討議では議長が促すまでもなく、たくさんの手が上がり、次々と活発な意見が出されました。学園生一人一人が学校全体の課題を自分事として捉え、これからも学校や自分自身の向上へとつなげていけるように、全職員で見守り、支援を続けていきます。



「当たり前」を当たり前に．．
ある文献にこのようなことが書いてありましたので紹介します。

「はしたない」という言葉があります。礼儀に外れたり、品格に欠けるなど、人として見苦しいことをさして使います。

かつての日本人は「はしたない」ことは恥として嫌い、厳しく戒めあったと言います。しかし、昨今はそうした部分への感性が鈍くなったのか、この言葉自体を使う人が少なくなってきました。（中略）

理屈ではなく、大人が自信をもって自分の価値観を子どもに指導すべきだと思います。自分の価値観を批判されるのを恐れて、指導をためらうことが一番の間違いです。

あいさつを心を込めて、明るく礼儀正しくするのは「当たり前」。掃除を無言で心を込めてするのは「当たり前」。授業で背筋を伸ばし、集中して受けるのも「当たり前」。髪型等を人から見て見苦しくないように整えるのも「当たり前」。そこには私たちに伝統的に受け継がれてきた価値観があります。自由をはき違えると見えなくなることでもありません。

学園生にとっても楽しみな夏休みがやってきます。日々成長する子供たちの一筋の成長を願ってやみません。

（校長）